

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504062		
法人名	社会福祉法人ノテ福祉会		
事業所名	グループホーム「ごきげん」福住 2階		
所在地	札幌市豊平区福住2条9丁目1-32		
自己評価作成日	平成28年3月1日	評価結果市町村受理日	平成28年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は羊が丘展望台や札幌ドームが見える住宅街の中にあります。バス通りに面している為、公共の交通機関を使う方にも比較的便利ですし、家族の面会も多く、理念にある気軽に立ち寄れるホームを実践しております。また、法人内での研修が認知症の基礎知識や感染症、高齢者虐待、プライバシーの保護、ヘルスケア等充実しています。さらに同じグループ内の学校法人にて認知症実践者研修や介護技術を学ぶことができます。認知症が中・重度になっても地域の中で支えることが出来るグループホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0170504062-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅地に建つ、鉄筋3階建ての瀟洒な建物の、二階と三階が『グループホーム「ごきげん」福住』で、一階には『小規模多機能型居宅介護「ごきげん」福住』を併設しており、バス通りに面し交通の利便性が良い事業所である。運営母体である社会福祉法人は、多くの福祉や介護サービス事業を展開しており、そのノウハウはサービスの質の向上と事業所の運営に活かされている。事業所内は自分らしく尊厳を持って暮らせるように配慮されており、各居室には洗面台やクローゼットを完備し、利用者は慣れ親しんだ家具に囲まれ、まるで自分の家にいるようにゆったりとした時間を過ごしている。浴室には三方向から介助できる浴槽を採用しており、重度になっても入浴を楽しむことができる。利用者の楽しみの一つである三度の食事は、運営母体の管理栄養士が献立を作り、主食と主菜はA・Bより選択でき、嗜好・食習慣・嚥下に配慮した食事を提供している。職員は法人内研修で働きながら学ぶ機会があり、介護職員初任者(旧ヘルパー2級)・介護福祉士・介護支援専門員等の資格を取得している。質の高いケアと共に、個別支援を実践している温かい地域密着型事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営計画とともに、4月の全体会議で確認をしているも、継続的に理念を考えてもらう場が少なかった。	運営母体である福祉法人の理念と事業所の理念は、各ユニットに掲示しており、事業所のパンフレットにも明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏季の散歩や管理者が町内会の草取り、新年会に参加しているのみで、連携が出来ているとは言えない。今後は職員にも参加してもらう予定にしている。	近隣住民とは、散歩時に挨拶をしている。中学生が職場体験で来訪し、また町内の住民向けに介護教室を開催している。	町内の理解を深め、地域から孤立しない様に、利用者の町内会行事の参加や、地域住民のボランティア訪問・町内住民の事業所行事の参加等を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の体験学習(ボランティア体験)を受け入れている。今年度は地域の方に向けて介護教室を実施するも、少人数しか集まらず、広報にも工夫が必要と考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、包括支援センターに参加してもらい結果を報告している。会議に出られなかったご家族には郵送している。	運営推進会議は、1階の小規模多機能と合同で定期的で開催しており、事業所の取り組みや利用者の状況等を話し合っている。	運営推進会議には、利用者家族や地域住民等幅広い参加が望まれる。どのようにして参加者を増やすか、職員会議で検討するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に連絡を取っている。	行政とは、日頃から電話や訪問でサービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席し意見交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規職員は採用時研修で学ぶ機会がある。また法人内研修を受けた職員が全体会議にて報告する伝達研修も行っている。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかり、利用者の安心と安全の遵守に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規職員は採用時研修で学ぶ機会がある。また法人内研修を受けた職員が全体会議にて報告する伝達研修も行っている。さらに、男性職員が多いことから男性職員を対象に虐待防止の研修を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業が必要と思われる入居者がおり、他の入居者の成年後見人にアドバイスをいただいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と口頭で説明し了承を得ている。不安や疑問点に対しても随時聞いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成前後に意見や要望を聞いている。また年に1度行われるご利用者アンケートでいただいたご意見を運営していく際に取り入れている。	意見が出やすいように苦情箱を設置しており、家族の来訪時には意見、要望を聞いている。年一度実施する無記名の家族アンケートの結果は、事業所の運営に効果を上げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議にて随時意見があれば聞いている。	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。さらに年2回人事考課を行い、職員の実績を評価している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で面談を行い話を聞く機会を設けている。また、法人は職員の意見も取り入れ、随時規定を見直している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修の他、感染症対策、メンタルヘルスケアなど法人内にて研修を受ける機会を設けている。また、ある程度経験を積んだ職員には、認知症実践者研修を受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の管理者連絡会やケア連絡会に参加し、グループホームだけでなく、他職種の職員と関わる機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査にてお話を聞き、入居後は特にコミュニケーションをとり、少しでも不安が軽減されるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも入居前からお話を聞く他、入居後も様子を伝えながら昔の様子を聞いたり、希望や要望がないかも聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前からのアセスメントに力を入れており、必要なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過介助にならないよう努めている。また少しでも出来ることはないか、小さなことでも本人が出来ることを見つけられるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家事を手伝って下さる家族にはお願いしている。また、季節の変わり目には衣類の入れ替えなどお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会時にはフロアや居室など過ごしやし場所ですごしてもらっている。また、友人の方にも積極的に来てもらっている。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援しており、家族を含め親族や知人の訪問も多く、継続的な交流ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の時間も大切にしながら適宜職員が間に入っている。また、入居者同士の関係も考慮しながら食事席はテーブル、カウンターを使い適度な距離を保ちつつ、孤立しないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中や家族からの聞き取りで希望や意向を把握するよう努めている。	一人ひとりの思いや意向を把握し、家族や周囲からも情報を得て、心身の状態に配慮しながら本人の希望に添えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞く他、必要に応じて入居前のケアマネやソーシャルワーカーにも聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員各自が得た情報が共有出来ていないことが度々あり、カンファレンス等で意見交換が出来るようにしていきたい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族にも要望を聞く他、ケアマネと担当職員が中心となり、モニタリングを行い、それを基にカンファレンスで意見を出し合い作成している。適宜かかりつけ医や訪問看護師にもアドバイスもらっている。	事業所独自の、アセスメントチェックシートを使い身体の変化や要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践は記録されているも、日々の様子についての記録が薄く、モニタリング時に十分生かしていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存サービスの中でしか対応出来ない現状にある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療での訪問リハを利用している方がいる他、今後は特養の管理栄養士と連携しながら、食事形態やカロリーなどを考慮し、今以上に個別に対応していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と家族の間に入り、連絡・報告を行うほか、必要に応じて適宜他の医療機関へ受診している。	週に2度の訪問看護師による健康管理、2週に1度の協力病院医師の訪問診療があり、医師や看護師とは24時間連絡がつく。また、個々の病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録に連絡事項を記載し、訪問日に口頭で伝えるほか、提携している訪問看護ステーションは24時間対応の為、夜間でも連絡が取れ、職員も安心できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院直後からこまめに情報交換し、早期に退院が出来るように伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族がかかりつけ医と直接話し、方針を決めている。	重度化や終末期の指針を策定し、事業所ができることを説明し、家族と話し合っている。医師や看護師の助言を受けながら、家族と対話を重ねチームとして取り組んでおり、看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意しているが、定期的に訓練は出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は行っている。また水害に対しても一昨年の大雨を教訓に災害時の対策を話し合っている。が、地域との協力体制は出来ていない。	消防署の協力のもと、年2回防災訓練を実施している。食料品や生活用品等の災害時備蓄品は、法人本部と一階の小規模多機能型事業所と協議し検討している。	自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、地域の協力依頼や、利用者の避難場所を家族に周知し、家族の避難場所は事業所で把握するなど、運営推進会議や職員会議で検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけなど、プライバシーに配慮した声かけには職員全員が気を付けている。	利用者のプライドや羞恥心を大切に、誇りを傷つける事がないように注意し、プライバシーに関わる事は、周囲に配慮しながら行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選んでもらえる場面では、その人に合わせた選択肢を用意し、選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝るか起きるかは、一人一人のペースに合わせるよう努めているが、1日の生活の中では職員のペースになることも多々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に衣類を選んでもらったり、訪問理美容時は入居者の話も聞きながら長さを決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆で食べているが、現在は介護度が重く、食事準備や後片付けはほぼ職員が行っている。出来る方にはぜひやってもらいたいと考えている。	主食や主菜はA・Bからの選択メニューを採用しており、利用者の好みや食べる楽しみに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて、個別に食事形態は対応している。来年度は、同じ地域にある特養の管理栄養士と連携出来るようになる為、カロリーや捕食など相談していく予定にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて、口腔ケア用のスポンジや歯磨きティッシュを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いながら、個々のパターンに応じて支援を行っている。	利用者本人のプライドや羞恥心を大切に、誇りを傷つける事がないように注意し、プライバシーに関わる事は、周囲に配慮しながら行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルトなどの乳製品をとってもらったり、個別の状態に応じてかかりつけ医や訪問看護師に相談をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっていないが、時間帯は概ね決まっている。本人に聞きながら、お湯の温度や浴槽に入っている時間などは個別に対応している。	浴室には、3方向から介助できる浴槽を設置しており、ヒートショックに配慮し床暖房を採用している。利用者の希望する曜日や時間に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適宜休憩を促したり、昼寝が長くなりすぎないように注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアに置いているファイルにお薬情報も入れており、確認した時にすぐ出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日ではないが、体操やカラオケなどで気分転換をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季にご近所を散歩するぐらいしか出来ておらず、居室の窓やベランダから外を眺めることが中心になっている。	利用者の入居年数も長く、介護度も重くなり、全員揃っての外出が難しくなっているが、暖かい日の散歩や外気浴は継続している。	日常的に外気浴・散歩・公園散策・買い物等、個々の希望に応じた外出を行い、閉塞感を防ぐ観点からも室内に閉じこもらない生活を支援するよう期待したい。また、年間外出計画表を作成し、外出や外食行事が家族に伝わるよう期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望している方には少額のお金を持ってもらっている。夏季には買い物にも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の高さや温度には配慮している。今後は季節感を取り入れられるようお花を飾るようにしたい。	1階玄関ホールには洗面台があり、外来者は入室前にうがい・手洗いができ感染防止に有効である。事業所全体が、利用者の安全と介護者の動きを考慮した造りになっており、回廊式の廊下は歩行運動に役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席や3人掛けソファ、台所のカウンターなど、必要に応じて使い分けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から相談しており、使い慣れた家具や置物の他、家族の写真も飾っている。	居室には、洗面台とクローゼットを設置してある。自宅で使い慣れた家具や調度品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ安心して寛いで過ごせるよう配慮・工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下で歩行訓練をしている方が安全に歩けるように、車椅子を自分で操作する方が自由に移動できるように廊下には何も置かない。		